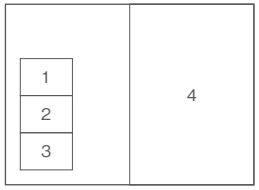
CD 01 007〜010

歌舞伎【かぶき】

特殊から一般化へ。趣味のよさと洒脱な造形「歌舞伎文様」

歌舞伎役者が、自己を主張する手段のひとつとして生み出した「柄」は、現在でいえば流行ブランドの創作です。その趣味のよさと洒脱な造形は、役者個人の手を離れ、ファッションとしての広がりをみせる要素を数多く秘めています。しかし、その「柄」の出どころを知ることも大切でしょう。



1 三升紋（みますもん）と隈取　CD 01_007
歌舞伎の市川家の定紋ですが、八代目市川團十郎の十八番『暫』の素襖（すおう）の袖に配置された大胆なデザインで有名。
鳥の子色（とりのこいろ）

2 三つ大縞文様　CD 01_008
板東三津五郎の家紋です。大の字の瓢箪が軽妙で、三本の縞との組み合わせは秀逸。粋なデザインとして、浴衣や手拭いにもてはやされたようです。
錆桔梗（さびききょう）

3 六弥太（ろくやた）格子文様　CD 01_009
歌舞伎の出し物の中で「岡部六弥太」の衣裳に使われ、六弥太格子として定着。男物の浴衣にまで使われるようになりました。
錆納戸（さびなんど）

4 歌舞伎の六弥太　CD 01_010
歌川豊国・浮世絵形状模写。ここには「さや型文様」「牡丹蜀江紋様」「雲文様」などが描かれています。